

町勢要覽

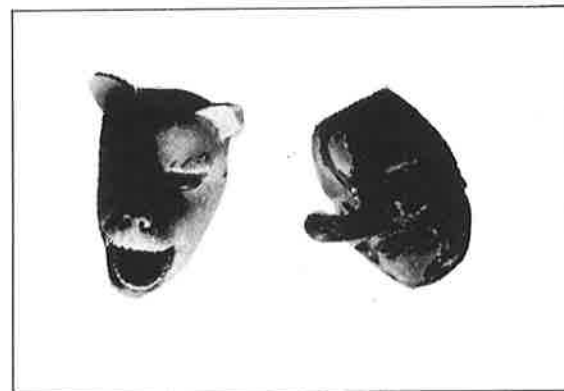


一宮町

内 容

沿革	1～2
財政	3
特別会計事業	4
人口と構成	5～6
産業と経済	7～10
教育	12
社会福祉	13
土木	14
運輸・通信	15
治安・消防	15
文化財の史蹟・観光	16～17

表 紙



玉前神社神楽面

玉前神社の太々神楽は、昭和33年4月23日付で千葉県無形文化財に指定されています。神楽面は徳川末期の作と推定され総数23面あってそのうち2面に若松屋の銘があります。

(玉前神社蔵)



町議会審議の状況

長谷川 静
 峰島喜久雄
 板倉 正
 峰島滝治
 小川佐一郎
 秦 勝蔵
 秋山嘉平治
 原田 孝
 伊藤 一郎
 鈴木 武
 三枝彦一
 木島高保
 渡辺武司
 鶴岡 栄
 編沢一治郎
 中村孫右衛門
 清水孝平
 伊藤 博
 市東文治
 森 常雄
 中村憲久
 収入役
 助役
 町長

議決機関

町議会議員名簿 (定員22名)

議長 酒井伊之助 副議長 中村孫右衛門

議席番号	氏名	生年月日	議席番号	氏名	生年月日
1	峰島喜久雄	S 2. 1. 5	12	鈴木武	M 45. 3. 12
2	板倉正	T 13. 2. 5	13	渡辺武司	M 43. 10. 16
3	原田孝	M 42. 6. 16	14	鶴沢一治郎	T 6. 1. 20
4	木島高保	T 4. 10. 16	15	伊藤博	T 15. 6. 17
5	中村孫右衛門	T 4. 11. 2	16	市東文治	S 3. 1. 27
6	清水孝平	M 30. 1. 6	17	小川佐一郎	T 3. 6. 24
7	森常雄	T 9. 8. 10	18	秦勝蔵	T 4. 1. 25
8	中村憲久	T 8. 5. 28	19	伊藤一郎	M 44. 8. 25
9	長谷川静	T 12. 12. 18	20	三枝彦一	S 4. 7. 1
10	峰島滝治	T 5. 3. 16	21	鶴岡栄	T 4. 4. 22
11	秋山嘉平治	T 15. 7. 12	22	酒井伊之助	M 33. 11. 27

※ 昭和45年11月3日就任

常任委員会委員名簿

総務委員	◎渡辺武司 ○伊藤一郎 中村孫右衛門 峰島喜久雄 秦勝蔵
文教委員	◎峰島滝治 ○鶴岡栄 清水孝平 板倉正 鈴木武
経済委員	◎三枝彦一 ○伊藤博 長谷川静 秋山嘉平治 中村憲久 市東文治
厚生委員	◎小川佐一郎 ○原田孝 鶴沢一治郎 森常雄 木島高保

◎ 委員長 ○ 副委員長

未来をつくる総合行政



執行機関

町長の事務部局の機構は、企画室と管理課・住民課・振興課の3課に分かれています。そのほか、教育委員会・農業委員会・選挙管理委員会・議会事務局があります。また、事業関係では、保育所・簡易水道・有線放送・国民宿舎・なぎさの家があります。

執行三役氏名

町長	近藤三郎	昭43. 5. 26就任
助役	川崎久夫	昭44. 9. 26就任
収入役	片岡武夫	昭43. 7. 1就任

【道路】
 ・九十九里海岸有料道路
 一宮町新地から飯岡までの海岸線を走る観光道路計画です。第一期工事として、一宮ノ片貝（延長17.5キロ）を工費16億4千万円で建設されることになって完成は昭和47年3月になります。

・新飯岡ノ一宮線
 九十九里海岸有料道路に接続して鳴山海岸までの道路です。一宮川の川口に新しく大橋をつくって海岸線の新浜開拓地の真中をぬけて鳴山海岸で国道128号線に接続します。延長は5千7百メートル・工費3億6千万円で全線が舗装されます。完成は昭和47年3月でこれが完成されると一宮ノ東浪見の海岸は別荘団地として急速に開発されることになるでしょう。

・国・県道の整備
 国道は、昭和46年3月に町内全線舗装が完了しました。また、県道は昭和47年度完了の予定が短縮されて次のように昭和45年度にはおわる見込です。
 一宮ノ椎木ノ長者線 本年3月・一宮線 昭和45年・飯岡ノ一宮線 昭和45年
 ・町道幹線の整備
 いま 都市計画事業と市町村圏事業（自治省）・生活圏事業（建設省）の三つの関連を考えて道路整備計画を作成中です。

【鉄道】
 ・房総東線複線電化
 千葉鉄道管理局で計画して、関東支社の審査をうけて国鉄本社で検討中です。事業の実施についてはすでにきまっていますが、工事内容などについて検討している中で、昭和47年7月に千倉駅までの電化、昭和49年7月に一宮駅までの複線化が完成されます。こ

の工事費は、全額が鉄道利用債でまかなわれますので、昨年11月から利用債の消化と利子補給について千葉県と関係市町村とで協議しています。

【観光と公園計画】

・国民宿舎・海岸プール
 一宮海岸の小松のなかに鉄筋3階建のモダンな国民宿舎がありま。敷地は国有地と国有地が特に利用できることになったもので、九十九里浜が一望できるすばらしい環境です。設備も、客間30室（大広間60畳）・小会議室（16畳）・ロビーなど近代的な構想による設計がされています。工費は約1億2千万円で、利用者にもたいへん喜ばれています。

また、この国民宿舎に接して、併せてプールが完成しました。この建設については、まえから要望されていたが敷地や建設費の問題が解決しないうちに実現しなかつたものです。幸に県当局のご理解のもとに原有地の使用が認められましたので、安心して泳げる「一宮海岸」のキャッチフレーズで夏の海水浴シーズンには利用度も高い状況です。

・洞庭湖公園
 風光に恵まれた洞庭湖附近は、自然公園の別荘地としての開発が期待されています。道路計画として国道から軍坂台まで、巾6メートルの改良工事が見込まれています。昭和47年度に完成の予定です。また、この附近には近代化した公園をつくることも計画中です。

【都市計画】

東京を中心とした都市化が急速にすすんでいるので、周辺の市町村では無秩序な市街地の拡大のため深刻な問題がおきています。一宮町の都市計画事業は昭和32年に地域指定をうけていますが、用途

地域や事業計画が決まらなかつたため多くの支障がおきています。このままでは、一宮駅東側や海岸方面にみられる「虫くい状態」がすすんで、その影響は生産や生活面にも及びます。そこで土地の利用計画をたて調和のとれた町の開発をはかるための都市計画が早急にすすめられる必要があるわけです。いま県の計画課と細部にわたって協議しているところで、近日中に一宮町建設審議会（意見）をきいたうえで町議会にはかることとなります。この様な過程を経たうえで、3月に開かれる千葉県都市計画地方審議会に提案されて実施にうつることになります。

【農業の振興】

・農業の近代化・合理化するためには農業の構造を根本的に変えておく必要があります。このためには土地基盤の整備やトラクター・田植機・自脱コンバイン・稲刈機などの導入による経営の共同化が必要となります。昭和44年・45年度には、8区（本給・柚木・内宿）の農業構造改善が千葉県農業開発公社の施工で実施されました。総事業費は7千600万円です。のうち4千8百68万円が国・県の補助金となります。

【教育の振興】

・一宮中学校の改築については、昭和45年または46年に予定して計画がすすめられています。新らしい時代に対応する教育を行うためには、施設設備の近代化と教育環境の整備が大切な要件となってきました。一宮中学校の校舎は、一部が危険校舎に指定されている実状なので早急な改築が必要というわけです。いま、補助対象事業として建設中で、建設費は約1億2千万円です。

沿革

1 町のおいたち

一宮町は、原始時代の遺跡（細田横穴群24基・柚木横穴群13基・貝殻塚貝塚＝縄文後期・野中遺跡＝縄文後期・待山円形古墳7基・など）も多く、古くから先住民が生活していたと思われています。奈良時代には、玉前神社が上総一宮の格式をもつようになって開発が進んできたようです。鎌倉時代には、上総平氏の平常家から4代広常までの館を一宮柳沢城（高塔山）にかまえていたといわれます。また、徳川時代には、享保年間に遠江守加納久通の所領となって幕末まで8代140余年にわたって城下町として繁栄しました。

中古以前は埴生郡に属して一宮荘の中心でしたが、後に長柄郡に編入されて一宮本郷村と呼ばれていました。明治4年に藩制が廃止されて木更津県の所管に、明治6年には新に県制がひかれて千葉県長生郡となりました。明治14年12月に新菱村を併せて一宮町と改められました。その後、昭和28年11月に東浪見村を合併して、続いて昭和29年4月に船頭給・昭和30年4月に新地・同年9月には宮原がそれぞれ長生村から分村合併して現在の一宮町となっています。

2 町のいまの姿

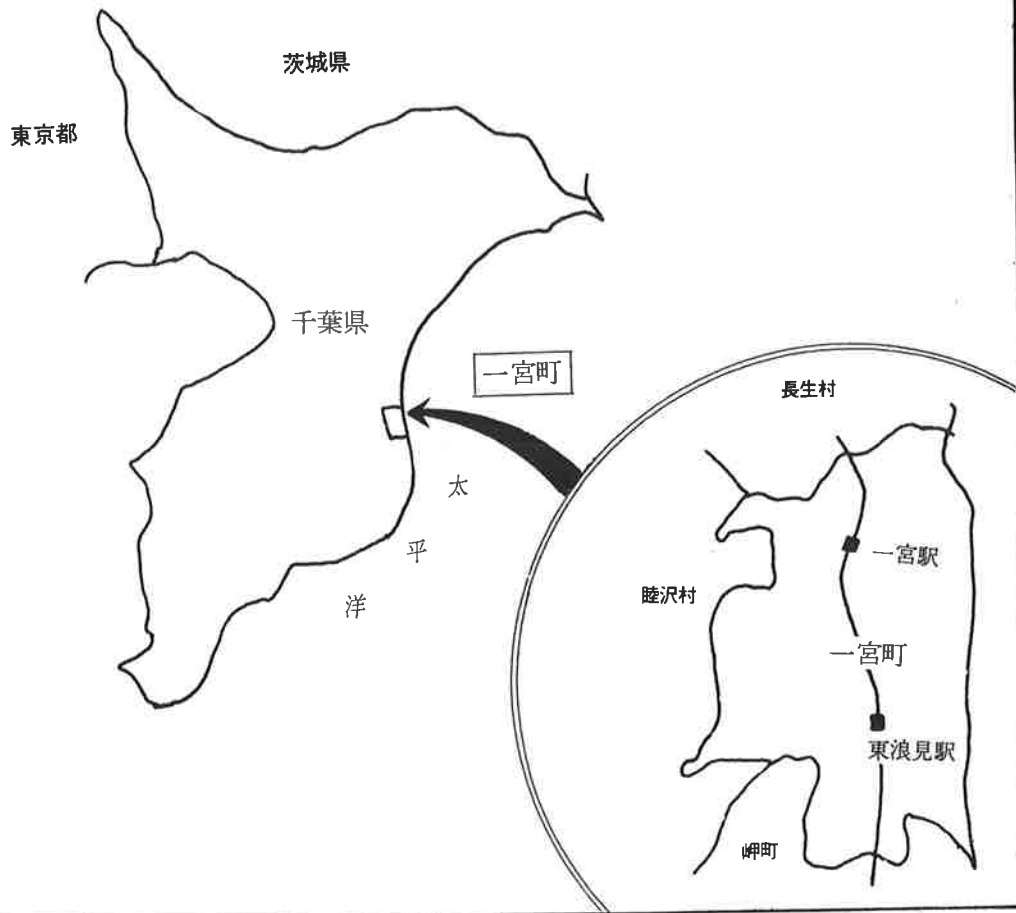
国鉄房総東線が南北に走り、上り・下りとも約1時間ごとに運行しており、町内には上総一宮駅と東浪見駅があって国鉄の利用には便利です。主要道路は国道128号線が町を横断していて、飯岡～一宮線・南総～一宮線・一宮停車場線の県道と交流して交通の便は良い現況です。従って、バスの路線も多く貨物の中継所として重要な場所となっています。

町の戸数の約40%は農家で、主要生産物は水稻ですが、ビニールハウス利用の野菜栽培・果樹・酪農が盛んで近代的な多角経営で収入も多いといえます。商業は、都市を中心とした商業の発展にともなう影響が大きいといえますが、誠実な経営によって永年の信用を得ている商店も多く、近隣町村からの客が相当の割合を示めています。また、郡内の茂原市の発展と交通の便のよい関係で俸給生活者が他町村に比らべて多いため、生産物や商品の町内消費高は大きいといえます。

位置

一宮町は、千葉県太平洋岸の九十九里浜の南端にあって、東経140度21分・北緯35度22分にあたっています。

面積 (km ²)	人口密度 (1 km ² あたり)
23.65	431.1





一宮町庁舎全景

一宮町庁舎概要

庁舎床面積 (内訳)	1.176.07	総経費 (内訳)	47.151.000円	竣工期日	昭和42年5月26日
1階	430.78	設計管理費	1.500.000円	設計	岡建築設計事務所
2階	655.29	庁舎建築費	41.035.000円	設計	
倉庫	90.00	土地購入費	2.000.000円	設計	加藤工務店
車庫		造園工事	500.000円	設計	
敷地面積	2.975.20	基盤調査	116.000円	施工	加藤工務店
		庁内備品	2.000.000円	施工	

加納久宣公

近代的な一宮町の創建のため功績のあった加納久宣公の胸像が、役場議場の一角に安置されており、久宣公は第八世加納藩主で明治2年大学南校でフランス学を修め、卒業後に盛岡師範学校長・新潟師範学校長・大審院検事を歴任して、明治17年に子爵の位を授与されています。明治27年には鹿児島県知事として県政の改革にあたって地方政治に貢献しました。また、貴族院議員を三期にわたってつとめて、産業組合・帝国農会・日本競馬会・日本体育会の創立にあたって“農政の父”と仰がれました。特に晩年の明治45年2月には懇請されて一宮町長に就任して、県下で初めての耕地整理を施工したり、観光地として基盤をきずくなど、一宮町の発展に寄与しています。大正8年3月に71才で歿し、正二位勲二等に叙せられました。



“緑と海と太陽の町”

一宮町のこれからの姿は、首都圏のなかで将来性のある健康地帯としてすべての人の憩いの場となることが理想像です。“緑と海と太陽の町”として恵まれた自然と豊かな資源をいかした町づくりの方向が行政のなかにかされ、長期計画がたてられ“70年代の未来図ができあがっています。

□一般会計・特別会計の推移

(単位 千円)

会計別	昭 35 年		昭 40 年		昭 和 43 年 度	
	歳 入 額	歳 出 額	歳 入 額	歳 出 額	歳 入 額	歳 出 額
一 般 会 計	63,427	61,478	234,758	224,455	215,066	198,821
国民健康保険特別会計	13,229	11,066	35,571	29,737	64,685	53,180
有線放送事業特別会計	3,533	3,140	27,083	26,663	13,895	13,163
渡船事業特別会計	4,023	4,017	1,701	1,492	1,836	1,759
簡易水道事業特別会計			15,386	14,893	8,604	6,852
一宮荘運営特別会計			8,346	8,156	8,787	8,101
母子休養ホーム特別会計					5,982	5,863

□昭和44年度一般会計決算

(単位 千円)

科 目	歳 入		科 目	歳 出	
	予 算 額	決 算 額		予 算 額	決 算 額
町 税	71,913	78,050	議 会 費	7,193	7,190
自動車取得税交付金	6,955	8,943	総 務 費	57,086	56,061
地方交付税	83,332	86,880	民 生 費	31,801	31,475
交通安全対策交付金	246	246	衛 生 費	7,399	7,089
分担金及負担金	7,329	7,355	労 働 費	3,299	3,273
使用料及手数料	4,689	5,225	農 林 水 産 業 費	45,773	44,753
国庫支出金	17,263	17,357	商 工 費	48,445	48,239
県支出金	30,811	31,172	土 木 費	73,728	72,114
財産収入	39,024	40,507	消 防 費	8,034	7,865
寄附金	1,316	1,640	教 育 費	27,388	23,987
繰入金	1	0	災 害 復 旧 費	4	0
繰越金	16,244	16,245	公 債 費	11,037	10,806
諸収入	3,137	3,599	諸 支 出 金	4,262	4,262
町 債	43,300	43,300	予 備 費	111	
計	325,560	340,525	計	325,560	317,114

特別会計事業として、国民健康保険・有線放送事業・簡易水道事業・一宮荘運営・渡船事業・母子休養ホームの六つがあります。独立採算の原則のなかでそれぞれの事業が運営されています。

□国民宿舎＝一宮荘

【本館】

昭和39年6月完成

建設費 9,000,000円

宿泊人員 40名

一宮川の河畔にあって夏は涼しく冬は暖い閑静な宿舎として好評です。

【新館】

昭和45年7月完成

建設費 95,850,000円

宿泊人員 120名

海・砂丘・松原にかこまれた一宮海岸のすばらしい景勝地に建てられ、50mプールと子ども用円型プール（工費＝3,480万円）が隣接しています。

□渡船事業

船数 5隻 運行期間 7～8月

航行距離（鉄橋下～海岸）約2km

昭和44年度利用状況

延利用者数 34,260名

料金収入 1,223,000円

※昭和36年6月30日に町営に移管

取得金額 3,325,000円

□簡易水道事業

現在まで2回にわたって拡張工事をすすめて別表（給水状況・用途別使用量）の現況にあります。更に第3次拡張工事として、昭和45～46年の2ヶ年継続事業で町内全域の給水計画がたてられています。工事費約1億8千万円で昭和47年4月給水開始の予定です。

昭和39年4月完成

工事費＝32,225,000円

用途別使用量

用途別	件数	給水 量
家庭用	818	144,700 m ³
その他	35	26,000 m ³
計	853	170,700 m ³

給水状況

給水戸数	年間給水量
853 戸	170,700 m ³

月平均給水量	配水管延長
14,225 m ³	17,055 m

□有線放送電話

業務開始 昭和34年4月10日

改修年月日 昭和40年4月10日

交換方式	富士通信KK H型自動式
施設費	51,000,000円

公社接続開始 昭和41年2月10日

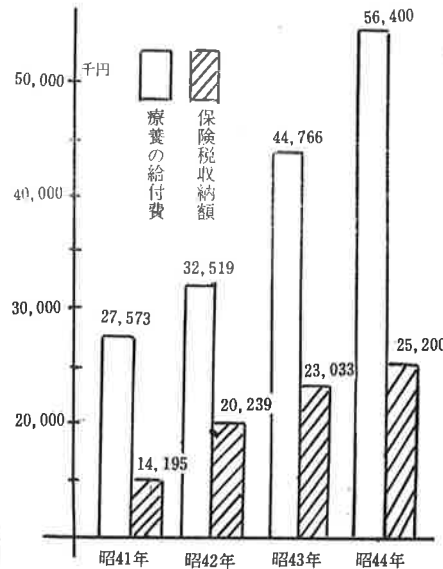
公社接続利用状況	
昭和44年1月～12月分1日平均	
発信	着信
125	63

加入者数 1,752 加入率 74.3%

□国民健康保険

～国民健康保険療養の

給付と保険税の推移



保険給付内容

療養給付範囲	一部負担金割合	
	世帯主	世帯員
制限なし	3割	3割

その他の給付		
助産費	葬祭費	育児手当
3,000円	4,000円	1,800円 (6ヶ月分)

広域事業

○し尿処理場

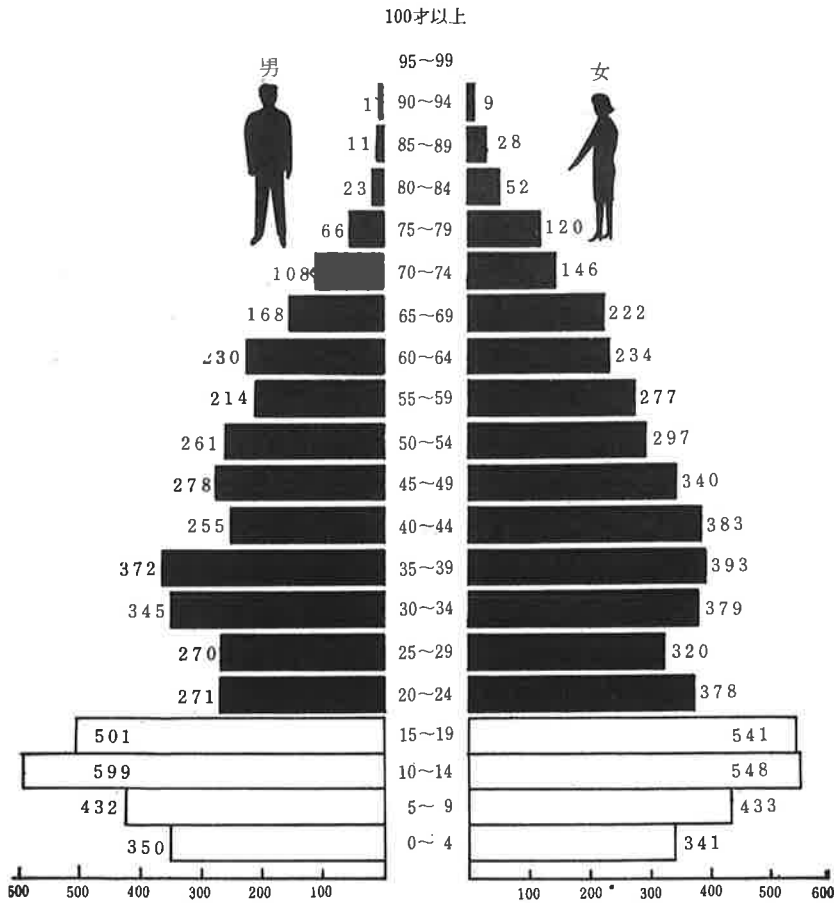
昭和41年11月1日、長南町・本納町・長柄町・白子町・睦沢村・長生村・一宮町と、茂原市との組合立で茂原市大芝に設立したものです。処理能力は月7,500石で一宮町からの投入量は月平均で490石程度です。

○火葬場

一宮町・岬町・睦沢村・白子町・長生村の五ヶ町村の組合立で昭和37年3月31日に完成しています。ロータリー式オイルバーナーの火葬炉・コンクリート・ブロックの祭場・待合室・専用自動車の設備があります。昭和44年度の利用件数は125件で一宮町内の利用件数は63件となっています。

人口と構成

□年令・男女別人口



□世帯数と人口

(45・3・31)

世帯数	人口総数		
	男	女	計
2,341	4,859	5,426	10,285

□人口の推移と動態

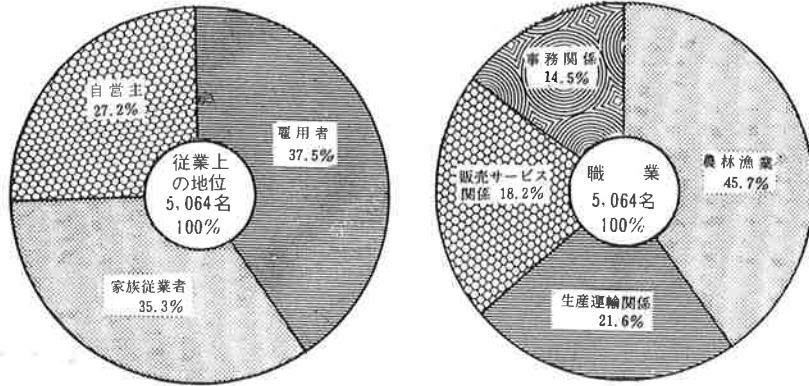
年次	世帯数	人口	出生	死亡	転入	転出
30	1,986	10,589				
35	2,228	11,385	184	111		
40	2,268	10,639	190	109		
44	2,340	10,316	207	94	456	538

□就業者の産業別構成(15才以上)

産業分類	昭和35年	昭和45年	
	構成員	構成員	男女
総数	5,064	5,064	2,694 2,370
農業	2,333	2,333	1,067 1,266
林業・狩猟業	1	1	0 1
漁業・水産養殖業	15	15	12 3
鉱業	2	2	2 0
建設業	220	220	198 22
製造業	646	646	381 265
卸売業・小売業	809	809	379 430
金融・保険・不動産業	52	52	34 18
運輸・通信業	249	249	220 29
電気・ガス・水道業	37	37	35 2
サービス業	543	543	252 291
公務	156	156	114 42
分類不能の産業	1	1	0 1

□就業者の産業別構成

昭和40年国勢調査



□労働力状態人口(15才以上)

	15才以上 人 口	勞 働 力			非 勞 働 力 人 口
		勞 働 力 総 数	就 業 中	失 業 者	
総 数	7,493	5,127	5,064	63	2,366
男	3,374	2,741	2,694	47	633
女	4,119	2,386	2,370	16	1,733

□長生郡内町村別世帯数・人口密度

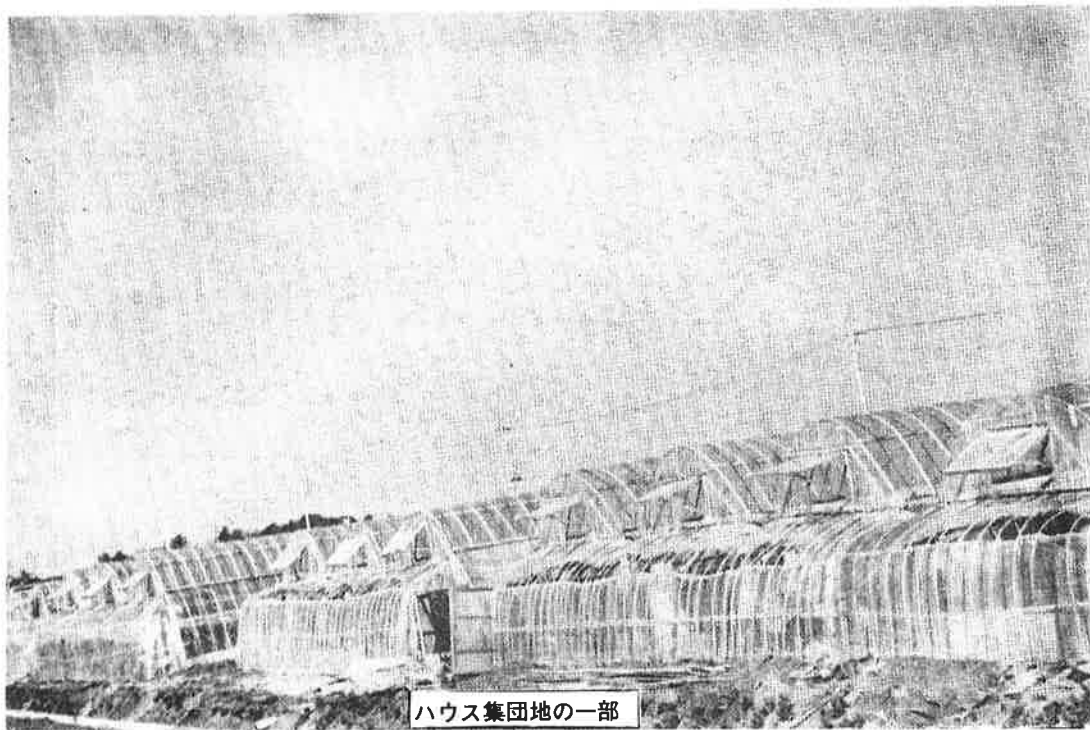
□産業別就業者数の推移(15才以上)

産 業 分 類	昭和25年	昭和30年	昭和35年	昭和40年
総 数	4,178	4,987	5,052	5,064
農 業	2,555	2,866	2,649	2,333
林 業・狩 猟 業	1	1	2	1
漁 業・水 産 養 殖 業	19	11	19	15
鉱 業	31	27	58	2
建 設 業	98	128	173	220
製 造 業	304	408	539	646
卸 売 業・小 売 業	507	716	753	809
金 融・保 険・不 動 産 業	24	35	55	52
運 輸・通 信 業	165	202	183	249
電 気・ガ ス・水 道 業			29	37
サ ー ビ ス 業	356	472	460	543
公 務	116	120	132	156
分 類 不 能 の 産 業	2	1	0	1

(船頭給・新地・宮原を除く)

45. 2月末現在(世帯数・人口)

町 村	世 帯 数	人 口			面 積 (km ²)	人 口 密 度 (1 km ² に付)
		総 数	男	女		
総 数	14,850	69,330	33,424	35,906	261.87	266.5
一宮町	2,339	10,355	4,909	5,446	23.65	431.1
睦沢村	1,529	7,321	3,533	3,788	35.44	209.0
長生村	2,041	9,930	4,745	5,185	28.78	337.4
白子村	2,471	11,577	5,701	5,876	27.02	418.1
本納町	2,161	10,009	4,853	5,156	34.40	302.0
長柄町	1,680	7,943	3,844	4,099	47.04	171.4
長南町	2,629	12,195	5,839	6,356	65.54	194.3



ハウス集団地の一部

産業と経済

本町の産業は、農業が主体であって自然環境を生かした米・野菜・果樹・酪農など経営の近代化が行われるようになってきました。したがって、農業収入は他の地域に比較して多い現状です。企業としては、地下資源の天然ガスの供給を行っている大多喜天然ガス（昭和12年創業）と、ガスの採集とヨード製造を行っている伊勢化学があります。そのほか、製材・食料品・酒造業・自動車整備工場・鉄工所などの小工場が50軒余あります。また、

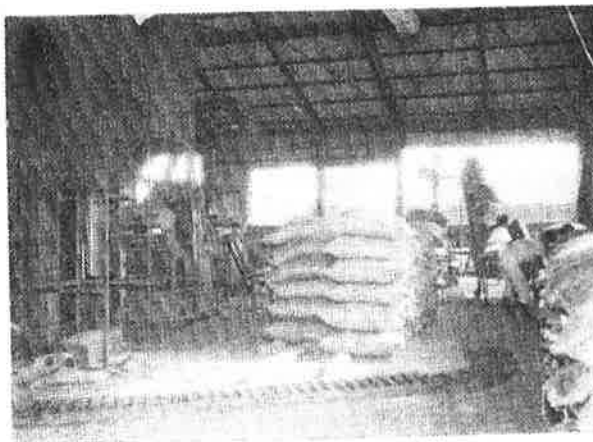
商店は、千葉市・茂原市の大商店におされぎみですが、永年の信頼と近隣町村の顧客の支持と商工会の活動によって販売額ものびをみせています。農業の振興策と商工業の経営合理化が徐々に進められている段階で、産業の高度成長は期待できない現況です。しかし、地方小都市の形態のなかでは、安定した経済活動が行われているとみられます。

二十世紀梨の収穫



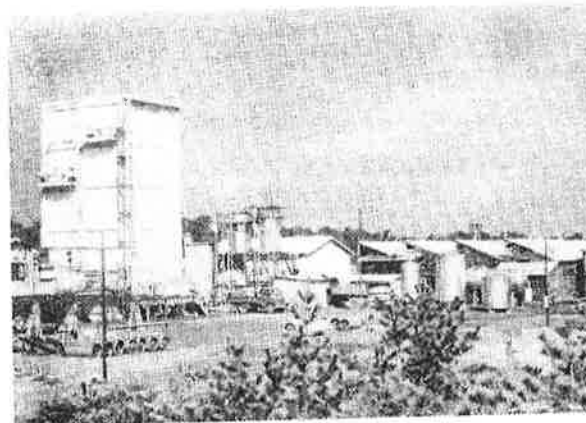
脱殻・乾燥・荷積までの

ライスセンター



ガスの採集とヨード製造の

伊勢化学KK



農業構造改善

事業一覧表

(単位:千円)

事業種目	施工所 箇所	受益範囲		事業量	事業費
		戸数	面積		
土地基盤整備 (区画整理)	1	296	163.83 ha	163.87	86,088
トラクター	1	60	45 ha	435 P.S 2台 附属機一式	4,800
農機具格納庫	1	60	45 ha	鉄筋スト 鉄骨家一棟	1,025
野菜集荷所	2	45	583.2㎡	二棟	8,210

事業費負担区分

(単位:千円)

区分	事業費	負担区分					
		国庫補助額	県補助額	町費	公債	庫金	近代化資金
土地基盤整備	86,088	43,044	17,217	1,050	19,800		4,977
経営近代化施設	14,035	6,992				6,980	63
計	100,123	50,036	17,217	1,050	19,800	6,980	5,040

第1次農業改善事業(完了)

施行年度 S39年~41年~3ヶ年

施行区域 一宮北部(船頭給、新地、宮原及び下村の一部)

受益面積 163 ha

経営類型 ソ菜+米(1戸当り経営目標~ソ菜400坪以上)

基本計画

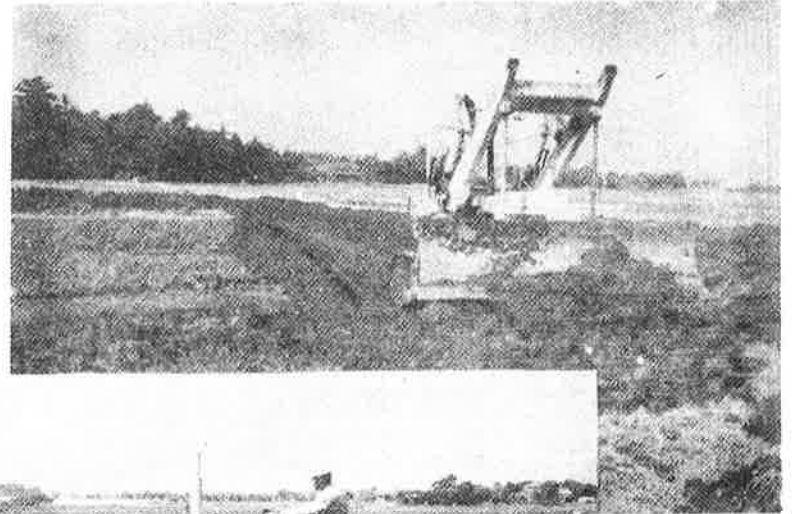
土地基盤整備事業~単なる・場整備事業に終ることなく田、畑全耕地の移動をおこないそれぞれの集団化をする。

近代化事業~主幹作目~ソ菜+米

トラクターの導入	} 水稻作の省力 ソ菜経営の拡大
格納庫の建設	
集荷場の建設	

農業の近代化のための農業構造改善は、本町では一宮川を境とする北部地帯を指定して実施されました。この計画の第一のねらいは土地基盤の整備によって田畑の全域を移動して集団化することで、第二のねらいは蔬菜+

米の経営類型を近代化するためトラクターの導入・蔬菜集荷施設の設置を行うことになりました。その実績は予想どおりの成果を期待できる現況にあります。



↑ 基盤整備の現場

トラクターの耕起作業 ←

第2次農業構造改善事業

施行年度 S44～45年～2ヶ年

施行区域 一宮町第8区(内宿、本給、抽木)

受益面積 23 ha

経営類型 米(+梨)(事業完了後約5 haが
水田より梨畑に転換される予定)

基本計画

谷田特有の土地条件を改め、個人経営中心の営農型態を出来るだけ集団営農方式にし、稲作近代化施設を整備し、稲作生産組合の設立をする。

区分	事業種目	施設 個所	受益範囲		事業量	事業費	
			戸数	面積			
補助事業	土整備 場整備	1	80	23.0	23.0	67,008	
	確定測量	1	80	24.0	24.0	1,192	
	換地計画	1	80	24.0	24.0		
小計						68,200	
事業	トラクター	1	35	17	27PS1台 附属一式	1,669	
	格納庫	1	35	17	1棟 33.0m ²	500	
	小計						2,169
	計						70,369

第1次農業改善事業再度事業

施行年度 S45～48年度(予定)

施行区域 一宮町原地区

受益面積 147 ha

経営類型 ソ菜

基本計画

- (1部1反区画の整理済み)再区画地を含めて標準3反区画とする。

田、畑分りして集団化する。個人経営

を3団地以内とする。

ハウス団地の造成(田畑と排水を分り)用水をパイプ方式、排水を自然排水及び排水機の取付～乾田化を図る

2. 水稲作の一貫機械体系による省力化

1戸のソ菜経営を1,500坪を見込む

3. 経営の分化を図る(専門農業化)(水田稲作の協業組織)

4. 中核的農家の育成を図る。

助区 成分	事業区分	事業種目	事業主体	事業内容	事業量	事業費 千円	
補助 事業	土地 基盤	圃場整備	一宮町	区画整理	130 ^{ha}	195,000	
			東部	確定測量	140	980	
			土地	換地計画	140	5,068	
	小計 改良区						201,048
	助 事 業	農業	水田作協 業施設 水田作地域施設 園芸地域	農協 〃 〃	トラクター	35PS一式	6,200
					格納庫	鉄骨平家 231m ²	3,465
					水稲育苗施設	施設一式	6,000
					糶乾燥調整施設	施設一式	44,000
		近代化	施設 園芸団地造成 総合地域施設	ソ菜	野菜撰果機	高精度BCS型	20,400
					苗供給施設	万年メッキ 8,580m ²	17,500
野菜集荷所							
小計						141,768	
計						3,000	
小計						242,333	
計						443,386	
単融 独資	農業 近代化	園芸施設	個人	野菜ハウス	47,124 ^{m²}	56,548	
		小計				56,548	
合計						499,929	

農業

◎専兼別農家数および経営耕地面積別農家数

	専 兼 別		経 営 耕 地 面 積 別 農 家 数							農 地 区 別 数
	専 業	兼 業	10 a 29 a	30 a 49 a	50 a 69 a	70 a 99 a	100 a 149 a	150 a 199 a	200 a 299 a	
総 数	2,037	373	67	80	104	188	307	86	14	846
一 宮	1,241	207	34	49	55	89	185	70	13	495
東 浪 見	796	166	33	31	49	99	122	16	1	351

◎農 家 人 口

常住世帯人員			16才以上の世帯員の就業内訳					
総数	男	女	総数	農業だけに 従事した人		兼業だけに 従事した人		農業にも兼業に も従事しない人
				農業が主	兼業が主	農業が主	兼業が主	
			853	612	51	95	69	26
構成比								

◎主な果樹の栽培状況

	栽 培 農 家 数	成 園		未 成 園	
		農 家 数	栽 培 面 積	農 家 数	栽 培 面 積
な し	186	170	2,576	37	157
も も	6	6	26		178
温州みかん	58	31	253	29	
夏みかん	10	7	40	5	44
そ の 他	3	3	34		
計	211	184	2,929	61	379

一宮には古くから採取経済に依存していた住民がいたことは貝塚などの遺跡からも推察されると共に、農耕生活による土地の開拓も比較的にはやく行われたようです。徳川末期の天保年間の一宮本郷村村鑑明細帳によると、稲・麦・粟・黍・大豆・木綿・芋類の農産物がつくられていました。徳川末期の加納藩の農政は、佐藤信淵が顧問格で指導にあたったためきわめて進歩的であったといわれています。明治年間には、加納久宣子爵が農業に対する見識も深かったので、全国にさがかけて耕地整理を行ったり誘蛾灯を設

置したり新品種の導入をしたり養鶏養豚品種改良にあたったので、早くから農業近代化の基盤がきざかれていました。

果樹(梨)は、明治26年に移入されたといわれ、酪農も明治29年に牧場を経営した人があり、養鶏も大正9年に専業として経営を初めている実績があります。恵まれた自然条件と進歩した栽培技術をいかして、ビニールハウスによる半促成栽培(トマト・キュウリ)が普及し、栽培面積は5万アールをこえています。

経営類型は、米+蔬菜の典型的な経営であるので、農業収入も多い現状です。

◎主な農作物の収穫、販売状況

種 類	収穫戸数	収穫面積 アール	販売戸数	種 類	収穫戸数	収穫面積 アール	販売戸数
水 稻	838	53,977	713	ト マ ト	150	144	66
小 麦	382	4,722	188	野 き ゆ う り	236	228	97
大 麦	159	1,650	44	な な す	489	581	140
馬 鈴 薯	484	1,133	120	菜 は く さ い	146	206	24
甘 藷	593	4,633	312	か ん ら ん	276	330	69
ま め 類	868	1,102	181	類 た ま ね ぎ	194	255	40
た ば こ	68	376	18	だ い こ ん	345	1,003	119

◎主な家畜飼育頭数の推移

	乳 牛	役 肉 牛	馬	山 羊	豚	にわとり
昭和41年	273	12	0		956	7,160
昭和42年	341	2	0	4	642	7,660
昭和43年	274	5	0		347	8,039

商工業

加納藩時代は、漁業が盛んで、海産物問屋が繁栄して軒をならべその他の商店も活気があったようです。明治時代になって商行為が活発になるに従って、玉前神社を中心として商店街が南北に形成されました。明治6年の記録では、商業151戸で賑いをみせていたようです。その頃の商業の特色としては小売を兼ねた卸売業が多く県下の商業地として八日市場・佐原・東金・木更津と並び称されていたものです。

しかし現在では、茂原市・千葉市の飛躍的な発展にともなって商店街はやや衰微の傾向にあるようです。商工振興対策としては、昭和23年に商工会が発足して、福引大売出し・融資斡旋・ネオン燈の設置などの活動が行われました。その後、昭和35年9月には法律による商工会が創立されて、経営指導員も配置されて活発な活動を初

めています。現在の会員は約240名で、商工会青年部・婦人部も結成されています。また、協同組合長生信販が顧客を固定されるための仕事をしています。

昭和42年には、一宮町商工会の発足を記念して“商工まつり”が行われ町の商業の発展を期して多彩な行事がもたれました。その後も続けて催されています。

(商工会結成後の主な事業)

- 昭36・8 商店街企業診断
- 昭37・4 税務記帳指導
記帳代行
- 昭39・6 外路灯設置(82基)
- 昭42・10 第1回商工まつり
- 昭44・5 商工会館の取得
有料・無料駐車場の設置
- その他 中元・年末大売出し・永年勤続者表彰・季節融資斡旋
商店従業員旅行

商店の状況

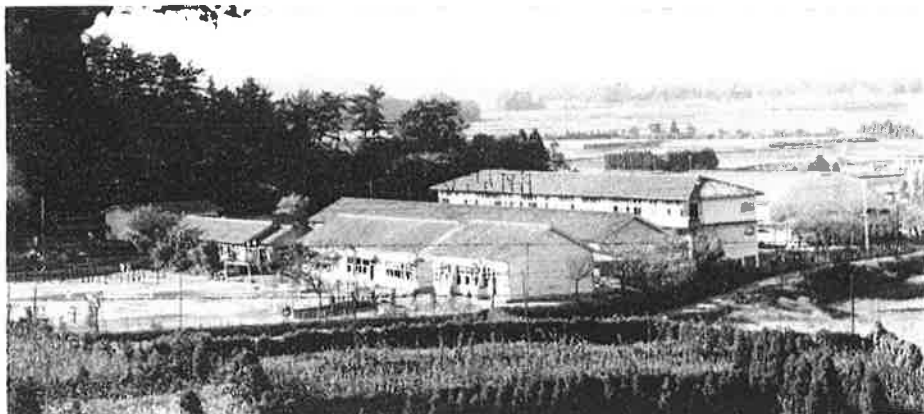
産業分類別	商店数	従業者数	年間商品販売額
			千円
一般卸売業	20	113	102,602
織物・衣服・身のまわり品小売業	26	95	21,123
飲食料品小売業	92	240	51,901
自転車・荷車小売業	13	32	9,745
家具・建具・什器小売業	23	79	31,810
その他の小売業	37	181	35,802
計	211	740	252,983

工場の状況

食料品	繊維工業	衣服その他の繊維製品	木製品	家具備品	出版印刷
18	77	6	6	1	1
化学工業	皮革製品	・業土石	機械	電気機械	その他
1	0	1	0	4	5

教育

業工商



町内の小・中学校は、一宮小学校・東浪見小学校と一

宮中学校の3校あります。中学校は、昭和33年8月に東浪見中学校と一宮中学校の2校を統合して現在の一宮中学校としたものです。

高等学校は、千葉県立一宮商業高等学校があります。

これは大正14年5月に一宮町有志によって設立された私立一宮実業学校が、新学制の実施と高校再編成で県立一宮商業高等学校に改められたものです。

一宮中学校建築状況

建築年度	面積m ²	種別	建築年度	面積m ²	種別
昭和28-40			昭和28-40		
(一宮中学校)			37	116	料理教室
28	273	校舎	38	680	体育館
30	145	音楽教室	40	1,054	校舎
33	755	校舎			
34	522	校舎			

町立小・中学校

学校名	児童(生徒)数			学級数	教職員数			備
	男	女	計		男	女	計	
一宮小学校	(12) 329	(5) 315	(17) 644	(2) 20	7	18	25	
東浪見小学校	115	111	226	7	5	4	9	
一宮中学校	(6) 256	(1) 283	(7) 539	(1) 15	13	10	23	

一宮中学校卒業生進路状況

年度別	卒業者数	進路状況		
		進学	就職	家事
昭和40年	280	184	48	48
昭和41年	216	140	48	28
昭和42年	228	144	46	38
昭和43年	200	128	29	42
昭和44年	211	153	26	32
昭和45年	207	151	25	31

県立高校(一宮商業高等学校)

学年	生徒数			学級数	教職員数		
	男	女	計		男	女	計
1	135	150	285	6			
2	110	162	272	6	34	5	39
3	134	149	283	6			
計	379	461	840	18			



一宮小学校新校舎

社会福祉

一宮町の福祉行政は、外郭団体の社会福祉協議会の活動によって、生活保護・母子家庭・長欠児童・身体障害者・精神薄弱児童の対策や、助け合い貸付・年末たすけ合い・簡易住宅・児童遊園地・心配ごと相談所などの事業を行って福祉の町・一宮の建設に邁進しています。保育所も公立3・私立1があって、恵まれた条件です。

□生活保護状況

種別	受給者数	金額
生活扶助	34	3,611
医療扶助	46	9,118
住宅	13	227
教育	18	240
葬祭	4	32

□保護費の推移

年度	金額
昭和40年	3,185
41	2,844
42	3,707
43	3,637
44	4,109

□身体障害者数

(手帳交付者)

聴覚障害	16
肢体不自由	87
視覚障害	
言語障害	15
戦傷	12
計	130

□国民年金

拠出年金適用状況

対象被保険者数A	適用済被保険者数			適用率 ^B _A
	強制B	任意	計	
3,583	3,024	10年々金220 5年々金70 若年任意269	3,583	100

福祉年金受給状況

区分	受給者数
老令	521
障害	40
母子	4
準母子	0
合計	565
未受領者	

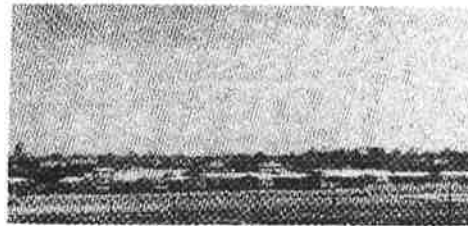
□保育所

名称	公私別	所在地	園長	保母	その他	入園児		
						男	女	計
一宮保育所	公	一宮町田町17	1	7	1園長補佐	66	74	140
東浪見保育所	公	一宮町東浪見2556	0	4	1人	33	32	65
原保育所	公	一宮町一宮1137	0	3	1人	16	14	30
愛光保育所	私	一宮町宮原1148	1	7	0	28	21	49

□町営住宅

戸数	所在地	規格	建設年度
10	一宮町西待山	第一種	36
10	〃	第二種	36
20	東浪見久保家	〃	37
15	一宮町野中	〃	38
15	〃	〃	39
15	西川間台	〃	40
15	〃	〃	41
10	〃	〃	42
10	東浪見新熊	〃	43
10	〃	〃	44
12	東浪見大村	〃	45(予定)

町営住宅は、計画中のものも含めて142戸となって住宅問題の解決のため意欲のある施策がとられています。



*一宮学園(海岸一宮橋ぎわ)

大正15年8月に財団法人児童愛護会が虚弱児童の収容施設として設立した施設で、その後昭和27年社会福祉法人に改められて虚弱児童の特殊教育を行う私立養護学校として認可されています。

*なぎさの家(海岸三保松地先)

千葉県福祉行政の事業として、母子家庭の宿泊・休養施設として工費約2千8百万円で施工されたもので、運営は一宮町に委託されています。

□ 道 路

	総延長	種 別	
		舗装道	その他
国道	7,000 m	7,000 m	0 m
県道	8,921 m	8,912 m	0 m
町道	232,713 m	4,723 m	227,990 m
計	248,634 m	20,644 m	227,990 m

□ 橋 梁

橋 名	橋 長	巾 員
一 宮 橋	4 6 m	7 m
新 一 宮 橋	6 3 m	5 m
中 之 橋	5 4 m	3 m 60 cm

土木事業

一宮町内には、国道128号線と県道南総一宮線・飯岡一宮線・片貝一宮線などの主要道路が通っていて交通量も多い現況です。

したがって、従来の道路は狭溢となって破損も激しいので道路行政は困難な状況にあります。しかし重点施策によって市街地の舗装改良は殆んど終わっている現況です。

国道128号線の一部が、鉄道踏切の関係で施工が困難な状況にありましたが国鉄房総東線との立体交差によって解決されました。

□ 主な道路の新設改良舗装の状況

区分 年度	施行場所	種別	工事内容	延長m
36	林道軍茶利線	林道	新設	550
38	東浪見停車場線	町道	改良	111
	洞庭湖線	林道	新設	200
40	128号線	国道	改良舗装	200
	一宮停車場線	県道	舗装	2,400
	南総一宮線	〃	〃	500
	飯岡一宮線	〃	新設	150
42	東浪見5号(綱田)	町道	改良	380
	128号線	国道	改良舗装	200
	一宮停車場線	県道	〃	150
	一宮椎木長者線	〃	舗装	200
	飯岡一宮線	〃	新設	480
	一宮片貝線	〃	改良	100
	軍茶利線	町道	新設	130
一宮停車場線	県道	巾員拡張	100	



町道の舗装もすすむ

区分 年度	施行場所	種別	工事内容	延長m
43	町道一宮4号線	町道	舗装	1,065.00 m
	〃 東浪見51 〃	〃	〃	480.00 m
	〃 船頭給8号線	〃	〃	66.00 m
	〃 79号線	〃	構造改良	25.50 m
44	町道 41号線	町道	舗装	214.05 m
	〃 46 〃	〃	改良	1,357.85 m
	〃 112 〃	〃	〃	219.10 m
	〃 414 〃	〃	〃	180 m
	〃 164 〃	〃	〃	140 m



海岸観光道路の造成

交通

□国鉄（房総東線）

東京—82.8km—上総—宮—50.3km—安房鴨川

上総一宮駅=明治30年4月17日開業

東浪見駅=大正14年12月15日開業

□バス（小湊鉄道）

一宮駅起点=海岸・太東駅・長者町・茂原・太東(国吉
經由)・大多喜・茂原(小泉經由)行

町内通過=茂原—一宮—長者町

通信

□一宮郵便局

郵便業務開始=明治6年6月1日

電信業務開始=明治30年3月16日

電話交換業務開始=明治42年2月21日

受持区域=一宮町・長生村 局員数 42名

区内人口・戸数=20,040人 4,286戸

□その他の通信機関

無集配郵便局 2局 長生・一松

簡易郵便局 1局 東浪見

□電話利用状況

区分 名称	加入者数	通話数			備考
		市内	市外		
			発信	着信	
一宮局	504	3,628 (41)	1,363 (197)	1,916 (298)	☆昭和45年3月31日の 1日分の通和数 ()内は一宮町有 線放送電話との接続 による通話数。

□郵便物取扱状況

区分		取扱数量	備考
通常郵便物	普通	6,697	☆昭和44年7月8 ~10日の3日間 の1日平均の取 扱数量(引受到 着による配達差 立の数)
	書留	194	
	速達	160	
小包郵便		204	

治安

□治安・法務関係官庁

名称	設立年月日	備考
茂原警察署一宮警察官 幹部派出所	昭和45年4月	大正15年茂原警察一宮分署から独 立昇格 昭和45年名称変更
千葉法務局一宮支局	昭和22年4月	
千葉地方検察庁一宮支部	昭和22年4月	
一宮本郷区裁判所	昭和24年1月	
一宮家事裁判所	昭和22年1月	
東浪見駐在所	明治23年10月	

□一宮警察署管内交通事故状況

年度	発生 件数	事故状況		
		死亡	負傷	物損
昭和41年	67	2	62	64
昭和42年	121	3	115	118
昭和43年	235	4	166	170
昭和44年	322	20	199	219

□消防勢力一覧

種別	消防ポンプ			水利施設			消防団	
	自動ポンプ	手動ポンプ	可搬動力ポンプ	貯水槽(池)	突井戸	消火栓	投	団
							員	員
数量	3	2	15	40	57	43	89	238
計	20			140			327	

文化財・史蹟案内

一宮町は、古くから上総地方の中心として繁栄してきたので、文化財は豊富ですぐれたものが数多く残されています。そのうち、国指定重要文化財1件・県指定文化財4件が選ばれています。

〔梅樹双鳥鏡〕＝国指定重要文化財
玉前神社の神鏡で、鎌倉時代の作品です。文様は、草のおいしげる川辺から上半面に大きくのびた梅樹がみごとに画かれ、その間に2羽の鳥が遊ぶ図柄となっています。

〔上総神楽〕＝県指定無形文化財
玉前神社に伝わる神楽で、現在は十六座が継承されています。舞の形・拍子・面などがよく保存されていることが特徴といえます。
1月13日(初祈祷)・4月13日(春祭)
9月13日(秋季大祭)に奉納されています。



〔台場と大砲〕＝史蹟

一宮藩では海岸防備のため海岸台場に砲台を築いて、砲七門を備えていました。大砲は茂原市永瀬家と茂原市が所有する二門が残っています。いずれも鋳物製の前装式の大砲です。鋳造は天保15年8月で江戸品川砲台より約8年まえのものです。



〔軍荼利明王像〕＝県指定有形文化財

軍荼利山東浪見寺の本尊で、藤原時代の作と推定されます。桧の一本造り、丈は約2メートルで、素朴な地方色の強い作品です。

〔軍荼利山植物群落地〕＝県指定天然記念物

標高約40メートルの丘陵地で、軍荼利山の境内の一部にあたります。永い間にわたって信仰的な制約によって保護されてきた原生林という形で残されてきたものといえます。数本のシイの木(樹齢約五百年)の下に暖地性植物(南方系)が自生し、そのなかに北方系植物も数種類まじっているので、極相林群落地として植物分布のうえで貴重な意味をもっているものです。主な植物は、ハイハマボツス・ミギマタゴボウ・キジョラン・ササキカズラ・オオバチドメ・リンボク・ハナミョウガ・フウトウカズラ・ヤブニツケなどです。

〔二上り甚句〕＝県指定無形文化財

徳川中期に全盛であった地引網漁業につながる生活の歌として生れたものと思われます。歌もおどりも古い形を伝えているもので、東浪見甚句と呼ばれています。歌詞の一部を紹介すると、

くじら潮ふく 小波のあるに
沖さ取りだす鳥毛あみ

浜をよばらせ なやおりさせて
上り下りの顔みたや

小寄り大寄り ひざまでまくる
深くなったら帯をとく

このほか、同じグループで、「盆だ歌」「大漁木遣り」「みやざく」などの古い民謡が正しい形で伝承されているので専門家の注目を浴びています。





地引網漁で海の幸を

景勝地

観光地として古くから有名で、「東の大磯」とも呼ばれた別荘地でしたが、最近では海・山・川に恵まれた理想的な観光地としてみなおされてきています。

(海) 黒潮の香り高い太平洋を望んで、九十九里浜の南端の房総十二景「一宮海岸」は夏の観光地として好適です。海水浴場も、動力シャワー・脱衣場・宿泊設備・救助施設なども完備しています。

(川) 町の北部を流れる一宮川は、投網・釣・船遊びに適しています。川魚の味覚は食

通の推賞するところで、うなぎ・はぜ・ぼら・いな・ふな・しじみなどがとれます。また夏季は駅北側鉄橋から海岸まで約2キロに渡船があって観光客に好評です。

(山) 町の西側の丘陵地帯は、洞庭湖・網田堰・雨竜湖・軍荼利堰・高藤山・軍荼利山などの景勝地や湖水が多いのでハイキング・釣などに適しています。

(その他) 太東岬・鳴山方面の雄大な景もようやくみとめられるようになって開発もすすんできています。

行事

〔1月10日＝初金比羅〕

玉崎山観明寺境内の金比羅堂の祭礼です。寺伝では約170年前に一宮町上宿の町人が大願成就を期して四国の琴平神宮の分霊を請けて信仰したもので後に観明寺に献納されたものといわれます。現在は水産業関係者の信仰の対象となっています。

〔1月13日＝初祈禱〕

玉前神社の神事で神楽の奉納があります。

〔1月28日＝軍荼利祭〕

軍荼利山東浪見寺の軍荼利堂の祭礼です。

〔3月15日＝経堂祭〕

玉崎山観明寺の経堂の祭礼です。経堂には釈迦入滅の絵図の大掛軸が掛けられます。また、境内に植木市が開かれます。

〔4月13日＝玉前神社春祭〕

神楽の奉納のほか神事が行われます。

〔4月初旬＝洞庭湖の桜〕

洞庭湖は天保年間に築造された灌漑用人工湖で約6.8

ヘクタールの面積です。天保15年の記念碑に「呈桜樹数株干天女 以修造焉」とあり池の周囲に桜が植樹されたのでいまは桜の名所として有名です。

〔8月16日＝花火大会・灯籠流し〕

一宮名物の花火と灯籠流しで、一宮橋から鉄橋付近まで数万の入出でにぎわいます。

〔9月10日＝鶺鴒神社迎祭〕

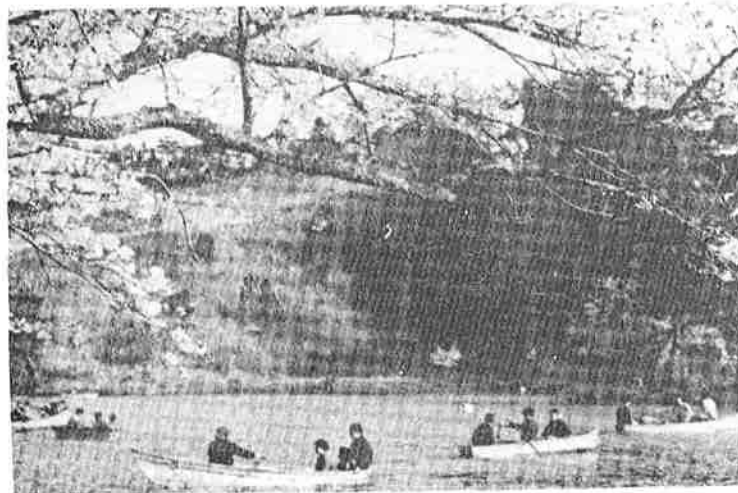
陸沢村岩井の鶺鴒神社の神輿と行列が玉前神社に渡御します。この行事は古式によつた神事で、両神社の密かな関係を示めているものです。

〔9月13日＝はだか祭〕

玉前神社の秋季例祭で、昔は十二社の神輿が東浪見地区釣ヶ崎まで渡御しましたがいまでは参加する神輿が少なくなっています。しかし広々とした太平洋の海原を背景にはるかに続く波打ぎわを疾走するたくましい裸の若人と神輿の列は、すばらしい壮観です。そのほかこの祭礼は古式ゆかしい行事が残されていて全国的にも珍しいものです。

〔10月27日＝愛宕祭〕

賑かな笛・大鼓の御囃が有名で神輿二社の渡御もあります。



花の洞庭湖

一宮町勢要覽 '70年版／発行 一宮町役場